

事例番号:300038

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 35 週 2 日

0:30 規則的な腹部緊満の自覚あり、既往帝王切開のため紹介元分娩
機関を受診

0:33- 胎児心拍数陣痛図で、基線細変動減少、一過性頻脈消失、軽度遅
発一過性徐脈を認める

2:00 陣痛発来、胎児発育不全疑いの診断で当該分娩機関へ紹介とな
り入院

4) 分娩経過

妊娠 35 週 2 日

2:06- 胎児心拍数陣痛図で、基線細変動減少、一過性頻脈消失を認める

3:08 切迫子宮破裂、陣痛発来のため帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯の太さ 0.8cm×1.0cm

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:35 週 2 日

(2) 出生時体重:1776g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.360、PCO₂ 44.0mmHg、PO₂ 33.0mmHg、

HCO₃⁻ 24.1mmol/L、BE -1.0mmol/L

(4) Apgarスコア:生後1分2点、生後5分7点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 第2度新生児仮死、胎便吸引症候群、低出生体重児

(7) 頭部画像所見:

生後4日 頭部CTで脳浮腫を認める

生後14日 頭部MRIで大脳基底核・視床に信号異常を認める

6) 診療体制等に関する情報

〈紹介元分娩機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医1名

看護スタッフ:助産師1名、看護師1名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医2名

看護スタッフ:助産師1名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠35週2日に受診する以前に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経障害であると考えられる。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性はある。

(3) 胎盤機能不全が脳性麻痺発症の背景因子となった可能性はある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

紹介元分娩機関における妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 35 週 2 日、紹介元分娩機関における妊産婦からの問い合わせの対応(5 分間隔でお腹が張っているという訴えに対し、来院を指示)は一般的である。
- (2) 紹介元分娩機関において妊娠 35 週 2 日に陣痛発来、胎児発育不全疑いと診断し、当該分娩機関へ転院としたことは一般的である。
- (3) 当該分娩機関において既往帝王切開後妊娠の妊産婦の陣痛発来に対して、帝王切開を決定したことは一般的である。
- (4) 帝王切開決定から 44 分で児を娩出したことは一般的である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (6) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)の処置は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 紹介元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 紹介元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

入院前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

入院前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。